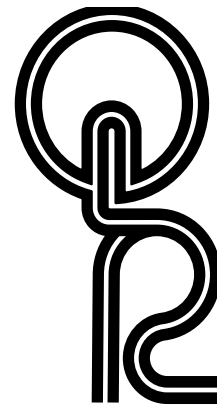


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 12 No.4, 2005



台湾台南市小滾水地域に分布する活動的泥火山。噴出定積速度が著しく速いため、その噴出活動を2 - 5年で終えるものもある。
(2003年12月、川村紀子撮影)

Vol. 12 No. 4

August 1, 2005

学会からのお知らせ	2	講習会の報告	17
2005年大会の案内(第3報)	3	シンポジウム報告	18
編集委員会からの案内	14	幹事会議事録	19
募集案内・シンポジウムのお知らせ	14		

日本第四紀学会総会のお知らせとお願い

8月27日(土) 島根大会会場にて2005年総会が開催されます。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

やむを得ず欠席される場合は、委任状(とじ込みのはがきまたはファックス)を必ずご提出ください。(庶務幹事)

ファックス送付の場合は8月23日(火)必着でお願いします。

Fax. 03-5273-4435

早稲田大学教育学部

日本第四紀学会庶務幹事 久保純子あて

総 会 委 任 状

2005年 月 日

日本第四紀学会総会議長殿

私は議長(または)氏)を代理人と定め、2005年度の日本第四紀学会総会におけるいっさいの議決権を委任します。

氏 名 () (署名または捺印)

所 属 ()

日本第四紀学会 2005年大会 - 総会・研究発表 (第3報)

一般研究発表・普及講演会 日本第四紀学会
 シンポジウム 日本第四紀学会・島根大学汽水域研究センター共催
 会場 島根大学

1. 日程の概要
 一般研究発表, シンポジウム, 普及講演会, 総会, 評議員会, 懇親会, 巡検
2. 会場案内 島根大学
3. 講演要旨集
4. 参加費
5. 懇親会
6. 大会プログラム
7. 総会
8. その他

1. 日程の概要

2005年8月26日(金) 一般研究発表(島根大学 教養講義室棟1号館1階)
 8:10- 大会受付・口頭発表データファイル受付
 9:15-10:30 オーラルセッション(○1-5)(教養講義室棟1号館1階100教室)
 10:30-10:45 休憩
 10:45-12:00 ポスターセッション ショートサマリー(P1-33)(100教室)
 12:00-13:00 昼食・休憩(幹事会:総合理工学部3号館3階地球資源環境学科講義室)
 13:00-14:30 ポスターセッションコアタイム(教養講義室棟1号館1階101教室)
 14:30-17:00 オーラルセッション(○6-15)
 17:00-19:00 評議員会(総合理工学部3号館3階,地球資源環境学科講義室)
 ポスター展示時間 9:30-17:00(8:30から掲示可能です)

2005年8月27日(土) 一般研究発表

8:10- 大会受付・口頭発表データファイル受付
 9:00-10:30 オーラルセッション(○16-21)
 10:30-10:35 休憩
 10:35-12:00 日本第四紀学会2005年総会(教養講義室棟1号館1階100教室)
 12:00-13:00 昼食・休憩
 13:00-13:30 ポスターセッションコアタイム
 13:30-15:15 オーラルセッション(○22-28)
 15:15-15:30 休憩
 15:30-17:30 オーラルセッション(○29-36)
 18:00-20:00 懇親会(島根大学 生協食堂)
 ポスター展示時間 9:00-17:30(17:45までに完全撤収)

2005年8月28日(日) シンポジウム(島根大学 教養講義室棟1号館1階100教室)

汽水域における完新世の古環境変動 - 自然環境の変遷と人為改変による環境変化 -
 第四紀学会2005年大会実行委員会・島根大学汽水域研究センター共催
 9:00-12:30 シンポジウム講演(S1-S11)

2005年8月28日(日) 普及講演会(島根大学 教養講義室棟1号館1階100教室)

人は自然環境にどのように向き合うのか - 過去から現在, 未来まで - (一般公開)
 14:00-17:00

2005年8月29日(月) 巡検(現地集合・参加者は案内者からの指示に従って下さい.)

「三瓶火山と三瓶小豆原埋没林」案内者: 中村唯史(三瓶自然館)

* 口頭発表は1会場で行われます。発表時間は1件15分で質問時間を含みます。ベルは1鈴10分、2鈴12分、終鈴15分です。2鈴で講演を終え、残り時間を質疑に充ててください。

* OHPは1台、液晶プロジェクタは1台ですが、複数のプロジェクタの同時使用はできません。スクリーンは1枚です。WINDOWS用とMacintosh用パソコンを準備します。

* OHPは発表者が自ら操作をしてください。

* 液晶プロジェクタを用いた口頭発表の準備について

(1) 大会会場ではMicrosoft PowerPoint 2002（およびそれ以下のバージョン）を用いた口頭発表が可能です。会場にはWINDOWSパソコン1台とMacintoshパソコン1台、それぞれに接続した液晶プロジェクタを準備します。

(2) 発表セッションの開始以前に、設置されたパソコンにデータファイルをコピーする必要があります。ファイルの受付は、大会受付ブースにパソコンを持った受付担当者があります。発表セッション開始前に、時間に十分余裕を持って受付をお済ませ下さい。朝のセッションは9:00からはじまります。ファイル受付は発表両日とも8:10から行いますので、早めの受付をお願いいたします。

(3) Microsoft PowerPoint 2002での発表希望者は、データファイルを下記の様式のメディアで準備して下さい。メディアの不適合による転送不能などの不具合については、実行委員会は責任を負いませんのでご承知置きください。

WINDOWS: USBメモリースティック、Type-IまたはType-IIフラッシュメモリーもしくはPCMCIAメモリーカード、ISO9660形式フォーマットのCD-R、CD-RW

Macintosh: USBメモリースティック、Type-IまたはType-IIフラッシュメモリーもしくはPCMCIAメモリーカード、MacでフォーマットしたCD-R、CD-RW

(4) PowerPointファイルは写真などの解像度を最低限として、極力データ量を小さくしてください。転送に支障をきたす場合があります。

(5) PowerPoint以外のプレゼンテーションソフトウェアをご使用の方は、パソコンをご持参下さい。また、パソコンの接続変更に必要な時間は発表時間に含まれるものとします。

* ポスターセッションは縦180cm、横90cmのパネルが用意され、掲示は26日(金)8:30から27日(土)17:45まで可能です。掲示に必要なピンや粘着テープはポスター会場に準備されています。

* ポスターセッションコアタイムには質問が受け付けられるよう、発表者はポスターセッション会場にいてください。

* ポスターセッション発表者には26日(金)10:45-12:00ポスターセッション・ショートサマリー(P1-33)で、1件2分以内の発表時間があります。2枚以内のOHPを用いて、要領よくセールスポイントを発表して下さい。ショートサマリーでは液晶プロジェクタの使用はできません。ご注意下さい。

* ポスター会場ではコンピューター・ビデオなどを使用した発表も可能ですが、使用する機器については発表者をご準備下さい。電源ケーブルや机などは実行委員会で準備します。これらの機器をポスター発表で使用される方、画鋏等で掲示できない重量物等の展示を希望される方は、必ず8月16日(火)までに郵送か電子メールで大会実行委員会に連絡して下さい(第四紀学会行事幹事宛ではありません。ご注意下さい)。

2. 会場案内

一般研究発表、シンポジウム、普及講演会、総会：島根大学 教養講義棟1号館1階

幹事会、評議員会：島根大学 総合理工学部3号館3階 地球資源環境学科講義室

懇親会：島根大学 生協食堂

(〒690-8504 島根県松江市西川津町1060)

島根大学への主要な交通

< JR松江駅まで >

米子空港または出雲空港 シャトルバス(約40分) JR山陰線松江駅

山陽線・山陽新幹線岡山駅 伯備線 山陰線 JR松江駅

主要都市から夜行高速バスでJR松江駅

< JR 松江駅から島根大学まで >

JR 松江駅 バス乗り場 番：市営バス(または一畑バス)で「島根大学」下車(10-25分)

< 自動車 >

山陰自動車道 松江中央ランプで下車 - 松江駅付近を經由 - 島根大学

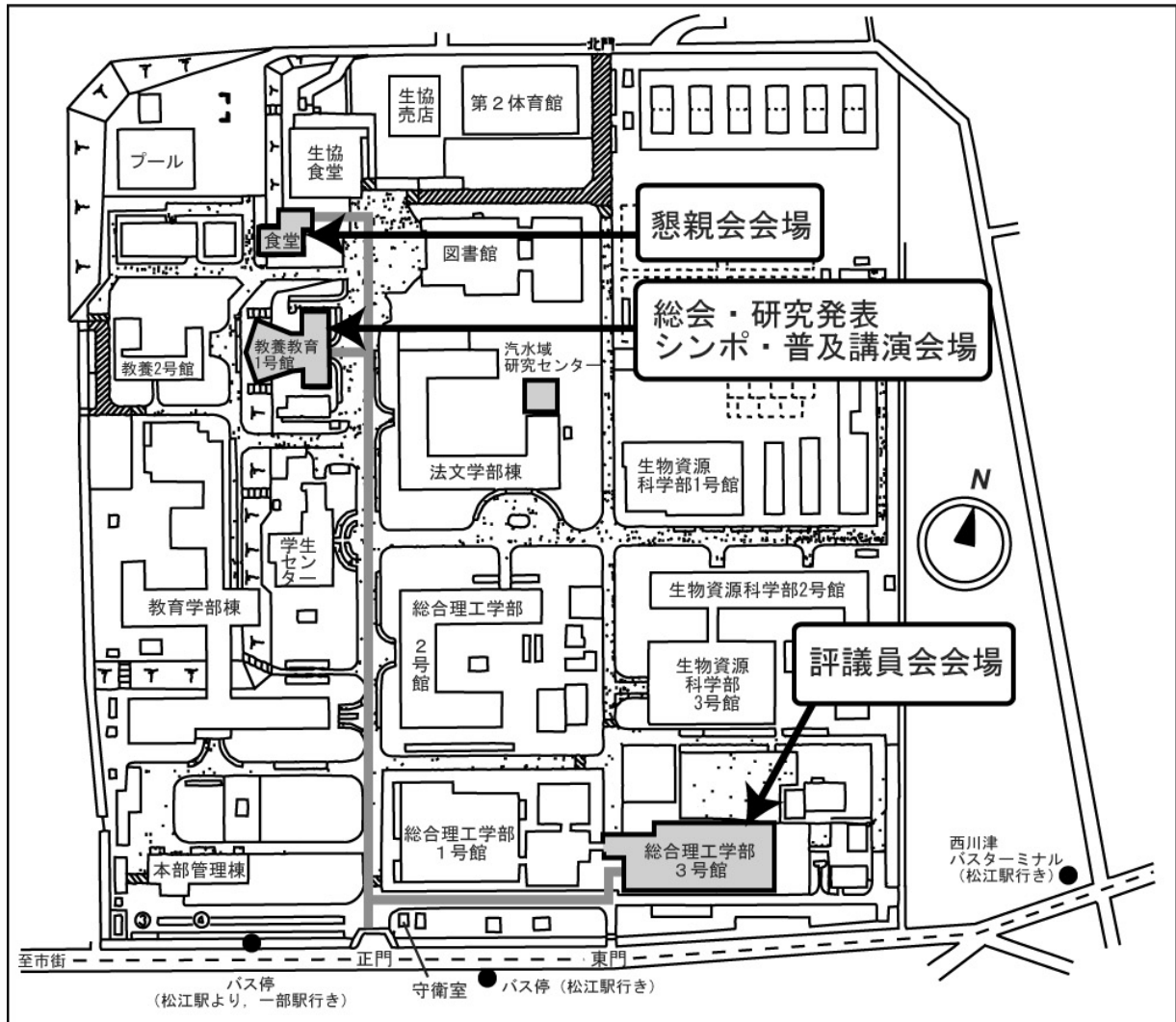
* 大学には駐車できません。車による会場への来訪はお断りいたします。駐車にはホテルの駐車場をご利用下さい。

くわしくは交通案内図、会場案内図をご覧下さい。

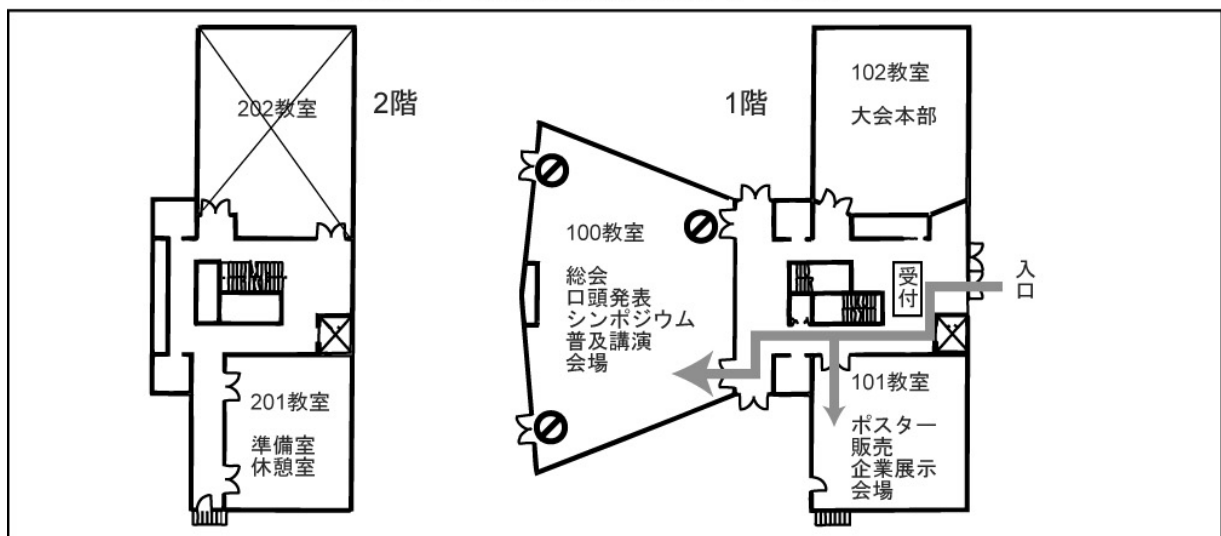
日本第四紀学会2005年大会（島根大学）への交通案内



日本第四紀学会2005年大会（島根大学）の会場案内



主会場（教養講義室棟1号館）



大会連絡先：木村純一

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 島根大学総合理工学部 地球資源環境学科

e-mail: jkimura@riko.shimane.ac.jp

Tel: 0852-32-6462, Fax: 0852-32-6469

大会実行委員会

実行委員長 木村純一（島根大学総合理工学部）

実行委員 入月俊明（島根大学総合理工学部）

酒井哲弥（島根大学総合理工学部）

瀬戸浩二（島根大学汽水域研究センター）

田中秀典（島根県環境保健公社）

中村唯史（三瓶自然館）

福岡 孝（三瓶自然館）

山口啓子（島根大学生物資源科学部）

山田和芳（島根大学汽水域研究センター）

渡邊正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

3. 講演要旨集

講演要旨集は会場で直接販売いたします。定価：2,000円。大会終了後通信販売もいたしますので、購入希望の方は下記へお申し込み下さい。

〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階

日本第四紀学会事務局

E-mail: daiyonki@shunkosha.com

TEL: 03-5291-6231/FAX: 03-5291-2176

4. 参加費

大会では参加費として2,000円を申し受けます。受付でお支払い下さい。ご協力をお願いいたします。

5. 懇親会

日 時：8月27日（土）18:00～20:00

場 所：島根大学 生協食堂

参加費：一般：5,000円，院生・学生：2,500円。

大会初日から，大会受付で参加受付をいたします。

6. 大会プログラム

（8ページ以降をご参照下さい）

7. 総会

2005年8月27日（土）

10:35-12:00 教養講義室棟1号館1階100教室

8. その他

評議員会

2005年8月26日（金）17:00-19:00 総合理工学部3号館3階 地球資源環境学科講義室

時間および会場等の詳細については，学会幹事会より各評議員に個別に連絡いたします。

6. 大会プログラム

一般発表およびシンポジウムは100教室で行います。

ポスターセッションは101教室で行います。

プログラム

1日目：2005年8月26日（金）

オーラルセッション：島根大学 教養講義室棟1号館100番教室

No.	講演時間	題名・氏名・所属
O-01	0915-0930	茨城県中部の下総層群から検出されたBT72テフラ・・・・・・・・・・ 中里裕臣（農工研）・鈴木毅彦（首都大学東京）・水野清秀（産総研）・大井信三（国土地理院）・横山芳春（早稲田大学）
O-02	0930-0945	古地磁気方位・絶対古地磁気強度からみた中期更新世前期の貝塩上宝テフラの噴出年代・・・・・・・・・・ 植木岳雪（産業技術総合研究所・地質情報研究部門）
O-03	0945-1000	斑晶鉱物の主成分化学組成を用いた火山噴出物の同定法の検討・・・・・・・・ 大石雅之（東京都立大学大学院）・鈴木毅彦（首都大学東京）
O-04	1000-1015	伊豆・東海地域および房総半島で発見された神津島天上山・新島宮塚山起源の流紋岩質テフラについて・・・・・・・・・・ 杉原重夫（明治大学）・壇原 徹・山下 透（京都フィッション・トラック）
O-05	1015-1030	島根県 鮮新 - 更新統江津層群中の火山灰層の化学組成に基づく対比・・ 立石 良・沢田順弘（島根大学総合理工学研究科）・永井淳也（ジョーコーポレーション）・酒井哲也（島根大学総合理工学研究科）
	10:30-10:45	休憩
	10:45-12:00	ポスターセッション ショートサマリー（P1-33）（100教室）
	12:00-13:00	昼食・休憩（幹事会：総合理工学部3号館3階地球資源環境学科講義室）
	13:00-14:30	ポスターセッションコアタイム（教養講義室棟1号館1階101教室）
O-06	1430-1445	堆積物の元素組成からみた浅間火山岩屑なだれの流下機構・・・・・・・・・・ 吉田英嗣（東京大・学振特別研究員）・須貝俊彦・大森博雄（東京大）
O-07	1445-1500	2004年新潟県中越地震によって生じた液状化現象・・・・・・・・・・ 陶野郁雄（山形大学）・岡本英士・加藤智久（山形大学・院）
O-08	1500-1515	中越地震にみられた斜面災害の特徴とその教訓・・・・・・・・・・ 鴨井幸彦（興和）
O-09	1515-1530	山口市を通る活断層帯とその活動性・・・・・・・・・・ 水野清秀・小松原 琢（産業技術総合研究所）・金折裕司（山口大学）
O-10	1530-1545	綾瀬川断層の活動履歴・・・・・・・・・・ 須貝俊彦（東大）・水野清秀（産総研）・八戸昭一（埼玉県環境科学国際センター）・石山達也・杉山雄一（産総研）・中里裕臣（農業工学研）・細谷卓志（中央開発）・松島紘子・大上隆史・吉田英嗣・山口正秋・佐藤壮紀・三枝芳江・鳴橋龍太郎・本多啓太・大森博雄（東大）
O-11	1545-1600	活発化する長野盆地西縁断層帯 - 長野市富士ノ塔山山頂付近の巨礫を指標として - ・・・・・・・・・・ 及川輝樹（サイクル機構・東濃地科学センター）
O-12	1600-1615	北海道南西部,長万部沿岸に分布する完新世海成段丘の隆起と黒松内低地断層帯の活動・・・・・・・・・・ 吾妻 崇（産総研・活断層研究センター）
O-13	1615-1630	旧汀線の年代からみた千島海溝沿いにおける隆起イベントの再来間隔・穴倉正展・澤井祐紀・鎌滝孝信・佐竹健治・岡村行信（産総研・活断層研究センター）・那須浩郎（国際日本文化研究センター）・松本 弾（京都大学大学院）
O-14	1630-1645	津波イベントによる底質環境の変化に応答した貝類化石群：房総半島南部に分布する完新統沼層の例・・・・・・・・・・

- 鎌滝孝信・藤原 治 (産業技術総合研究所活断層研究センター)
 ○-15 1645-1700 静岡県伊東市北部の宇佐美遺跡に見られる津波(?)イベント堆積物・・
 藤原 治 (産総研 活断層研究センター)・平川一臣 (北大・院・地球
 環境)・金子浩之・杉山宏生 (伊東市教育委員会生涯学習課)・高田圭太
 (復建調査設計)

17:00-19:00 評議員会 (総合理工学部 3号館 3階, 地球資源環境学科講義室)
 ポスター展示時間 9:30-17:00 (8:30 から掲示可能です)

2日目: 2005年8月27日(土)

オーラルセッション: 島根大学 教養講義室棟 1号館 100 番教室

- 16 0900-0915 広島県神石町帝釈大風呂洞窟遺跡の後期更新世～完新世の哺乳類化石群
 集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・河村善也 (愛知教育大)
- 17 0915-0930 インドネシア東ジャワ更新世考古遺跡の ESR 及びウラン系列法による
 年代測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 Sebastien HAMEAU・豊田 新 (岡山理科大学理)・Francois SEMAH
 ・Anne Marie SEMAH・Christophe Falaueres (Department de
 Prehistoire du Museum national d' Histoire naturelle)
- 18 0930-0945 北西太平洋の2つの異なった海山 - 違った海底火山が同じ場所にいる理
 由 -・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 藤岡換太郎 (JAMSTEC/IFREE)・今井康貴・徳長 航 (GODI)・古田
 俊夫・牧 哲司・畠山 清 (JAMSTEC)・細谷慎一 (NME)
- 19 0945-1000 イースター島火山湖堆積物からみた環境変遷と巨石文明の衰退・・・・・
 川崎俊明・福澤仁之 (首都大学東京)・安田喜憲 (国際日本文化研究セン
 ター)
- 20 1000-1015 トカラ海峡周辺の古環境の変化に関連した第四紀の内湾生貝形虫 (甲殻
 類) の移動と消滅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 入月俊明 (島根大)・石田 桂 (信州大)・河野重範・高田裕行 (島根大)
- 21 1015-1030 中部琉球喜界島に発達する更新世最上位段丘 (百ノ台段丘) の形成史・・
 稲垣美幸・大村明雄 (金沢大学)

10:30-10:35 休憩

10:35-12:00 日本第四紀学会 2005年総会 (教養講義室棟 1号館 1階 100 番教室)

12:00-13:00 昼食・休憩

13:00-13:30 ポスターセッションコアタイム

- 22 1300-1345 栃木県喜連川丘陵における過去70万年間の細粒石英の供給率と粒径変化
 木村純一・楠本英祐・美澄陽子・紺谷秋江 (島根大学)・鈴木毅彦 (首都
 大学東京)
- 23 1345-1400 熊谷市, 荒川大橋付近の堤外地内段丘地形とその堆積物・・・・・・・・
 菊地隆男 (立正大地球環境科学部)・石田 武・早乙女尊宣 (立正大 ORC)
- 24 1400-1415 甲府盆地における中期更新世以降の埋積過程・・・・・・・・
 寺田香奈子・鈴木毅彦 (首都大学東京)
- 25 1415-1430 岐阜県瑞浪市大湫における盆地堆積物調査 (予報)・・・・・・・・
 柳田 誠 (阪神コンサルタンツ)・佐々木俊法 (東大・院)・須貝俊彦
 (東大)・藤原 治 (産総研)・守屋俊文 (サイクル機構)・宮城豊彦 (東
 北学院大)・守田益宗 (岡山理科大)・古澤 明 (古澤地質)・福沢仁之
 (首都大)
- 26 1430-1445 長野市高野層全層ボーリングコアの層相とTOC含有率変動・・・・・・・・
 田原敬治・角田尚子・野末泰宏・公文富士夫 (信州大学)・長橋良隆 (福

- 島大学)
- 27 1445-1500 長野市高野層の炭化水素成分から推定される古環境変遷
野末泰宏・田原敬治・公文富士夫・福島和夫(信州大学)
- 28 1500-1515 有機炭素含有量は日本の第四紀後期の気候変動を詳細に解明できるか・
公文富士夫(信州大学理学部物質循環学科)
- 15:15-15:30 休憩
- 29 1530-1545 岐阜県大湫盆地の堆積物に記録された中期更新世以降の古環境変動 . . .
佐々木俊法(東京大学・院)・須貝俊彦(東京大学)・柳田 誠(阪神コ
ンサルタンツ)
- 30 1545-1600 浅層ボーリングにもとづく濃尾平野沖積最上部層の堆積相と分布様式・
山口正秋・須貝俊彦・鳴橋龍太郎・吉田英嗣・堤 聡衣・柏野花名・大
上隆史・松島紘子・福田浩之・本多啓太・大森博雄・(東京大)・藤原
治・鎌滝孝信(産総研)・布施圭介(大和地質研究所)
- 31 1600-1615 河内平野中央部における完新世貝形虫群集の変遷と堆積環境
西田慎一・安原盛明・吉川周作(大阪市立大学)
- 32 1615-1630 東大阪ボーリングコア中の構成粒子と完新世の環境変遷史
田中裕一郎・辻本 彰・吉川周作(大阪市立大学)
- 33 1630-1645 大阪湾における過去約 150 年間の底質環境変遷と底生生物の変化 . . .
辻本 彰(大阪市大)・三瓶良和(島根大)・安原盛明(大阪市大)・山崎
秀夫(近畿大)・野村律夫(島根大)・吉川周作(大阪市大)
- 34 1645-1700 広島湾における過去約 100年間の底生有孔虫群集の変化と人為的影響・
山本 巨・辻本 彰(大阪市立大)・山崎秀夫(近畿大)・安原盛明・吉
川周作(大阪市立大)
- 35 1700-1715 底生有孔虫のMg/Ca比を用いた豊後水道における過去100年間の底層
水温変動記録 - 数十年間スケールの黒潮変動の復元に向けて -
加 三千宣(愛媛大)・速見祐一(佐賀大)・兼田淳史(愛媛大)・山下亜
純(愛媛県水産試験所)・井内美郎(愛媛大)・武岡英隆(愛媛大)・川幡
穂高(産業技術総合研究所)
- 36 1715-1730 メコン川の塩水湖上 - 濁水期, 2005年5月の観測 -
徳岡隆夫・吹田 歩(徳岡汽水環境研究所)・立石雅昭・本多 結(新潟
大学)・西村清和(産業技術総合研究所)・松田滋夫(クローバテック)・
Van Lap Nauen・Thi Kim Oanh Ta(ベトナム国立科学技術研地理学
副研究所)

18:00-20:00 懇親会(島根大学 生協食堂)

ポスター展示時間 9:00-17:30(17:45までに完全撤収)

ポスターセッション: 会場 教養講義室棟1号館101番教室

No. 題名・氏名・所属

- P-01 下北半島田名部平野における海成段丘構成物の形成と相対的海面変化
桑原拓一郎(産総研, 深部地質環境研究センター)
- P-02 鳥取県倉吉市桜における火山灰層間に埋没する古土壌の母材 - 風成塵の意義 -
成瀬敏郎(兵庫教育大)・北川靖夫(福井県立大)・岡田昭明(鳥取大)・豊田 新(岡
山理大)・矢田浩太郎(兵教大院)・赤嶺和江(兵教大院)
- P-03 石灰岩地の侵食速度からみた中国~北九州地方のカルスト発達史仮説
藤井厚志(北九州市いのちのたび博物館)
- P-04 海底地形データの管理とその利用 - 北西太平洋の海山を例として -
細谷慎一(NME)・藤岡換太郎(JAMSTEC/IFREE)・今井康貴・徳長 航(GODI)・

- 古田俊夫・牧 哲司・畠山 清・曾野和彦 (JAMSTEC)
- P-05 長野県北部・高野層ボーリングコアのテフラ層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・
長橋良隆・佐藤孝子 (福島大学)・竹下欣宏 (栃木県立博物館)・田原敬治・公文富士夫 (信州大学)
- P-06 花粉分析による沖縄本島の鮮新世末期から更新世前期の植生変遷・・・・・・・・・・
藤木利之・小澤智生 (名古屋大学大学院)
- P-07 韓国全谷里遺跡周辺における比抵抗調査 - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
井上直人 (京大)・黄 昭姫・林田 明・若林邦彦・松藤和人 (同志社大)・Kidong BAE (Hanyang Univ.)
- P-08 北海道東部釧路市春採湖コア中に認められる, 過去 9500 年間に生じた急激な珪藻遺骸群集の変化と巨大地震津波との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・
添田雄二 (北海道開拓記念館)・七山 太・古川竜太 (産業技術総合研究所)
- P-09 長野市南縁部, 涌池堆積物の TOC 含有量と最近約 100 年間の気象要素との相関・・・
角田尚子 (信州大学大学院工学系研究科)・公文富士夫・富田紀子 (信州大学理学部)
- P-10 東海沖から採取されたピストンコア中からの三瓶浮布軽石の発見とその意義・・・・・・・・
池原 研 (産総研・地質情報)・棚橋 学・森田澄人 (産総研・地圏)・壇原 徹・山下 透 (京都フィッシュン・トラック)
- P-11 南海トラフ沿岸域における津浪堆積物研究の現状と重要性・・・・・・・・・・・・・・・・
小松原純子・藤原 治・鎌滝孝信 (産業技術総合研究所)
- P-12 古琵琶湖層群の上仰木 火山灰層と上総層群の Ks10 火山灰層の対比・・・・・・・・・・
里口保文 (琵琶湖博物館)
- P-13 過去 40 万年間の琵琶湖における *Stephanodiscus* 属の形態変化と種分化のプロセス, 環境変化との関係性の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・
加藤めぐみ (学振・科博)・谷村好洋 (科博)・森 忍 (元名古屋大)
- P-14 最新の ^{14}C 年代 - 暦年代較正データセット (INTCAL04) について・・・・・・・・・・
中村俊夫 (名古屋大)・高精度 ^{14}C 年代測定研究委員会
- P-15 太宰府市におけるため池周辺景観の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・
黒田圭介 (山形大学・院)・磯 望 (西南学院大学)・後藤健介 (西南学院大学・学振特別研究院)
- P-16 苦鉄質鉱物の化学組成に基づく高野層ボーリングコア中のテフラの識別と対比・・・・
竹下欣宏 (栃木県立博物館)・長橋良隆 (福島大学)・田原敬治・公文富士夫 (信州大学)
- P-17 ESR 信号を用いた石英粒子の供給起源推定に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・
島田愛子・高田将志 (奈良女子大学)・豊田 新 (岡山理科大学)
- P-18 新潟市の砂丘湖, 佐潟の完新世湖沼堆積物の昆虫化石群集・・・・・・・・・・・・・・・・
林 成多 (ホシザキグリーン財団)・百原 新 (千葉大園芸)
- P-19 北部九州, 檜原湿原のコア試料 KS0412-3 からみた最近 800 年間の環境変化・・・・
奥野 充・鮎沢 潤 (福岡大)・中村俊夫・藤木利之 (名古屋大)・杉山真二 (古環境研)・森 勇一・上田恭子 (津島東高)・此松昌彦 (和歌山大)・酒井英男・吉田直人 (富山大)・長岡信治 (長崎大)
- P-20 岐阜県柿田遺跡における木材利用と古植生の変遷過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・
植田弥生・三村昌史・新山雅広 (パレオ・ラボ)・能城修一 (森林総合研究所)
- P-21 房総半島における完新世津波堆積物中の貝形虫化石群集とそのタフオノミー・・・・
佐々木裕美・入月俊明 (島根大)・安部恒平 (筑波大)・内田淳一 (熊本大)・藤原 治 (産総研)
- P-22 石英を用いたテフラの電子スピン共鳴及びルミネッセンス年代測定 - 現状と課題 - ・・
豊田 新 (岡山理科大学理)・塚本すみ子 (首都大学東京都市環境)・Sebastien Hameau・Helene Tissoux (岡山理科大学理)・宮入陽介 (東京大学大学院理学系)・鈴木毅彦 (首都大学東京都市環境)
- P-23 Creuse River valley (France) 堆積物のチタン中心を用いた ESR 年代測定・・・・・・・・
Helene Tissoux・豊田 新 (岡山理科大学理)・Christophe Falgueres・Pierre Voinchet・Jean-Jacques Bahain・Jackie Desprée (Department de Prehistoire,

- Museum National d' Histoire naturelle)
- P-24 中海 - 弓ヶ浜砂州 - 美保湾の層序対比と後期更新世以降の古地理発達
井上卓彦 (愛媛大理工学研究科)・中村唯史 (三瓶自然館)・徳岡隆夫・吹田 歩 (徳岡汽水環境研究所)・井内美郎 (愛媛大沿岸環境科学研究センター)
- P-25 鳥取県弓ヶ浜半島の海浜地形の変化: 2004年10月の台風23号通過に伴う海浜の侵食とその後の地形回復
大橋なつ紀 (ダイワボウ情報システム)・酒井哲弥 (島根大・総合理工)
- P-26 斐伊川河床堆積物の時間変遷
酒井哲弥・古志育子・立石 良 (島根大・総合理工学)
- P-27 福岡県西方沖地震による被害分布の特徴
磯 望 (西南大)・黒木貴一 (福教大)・後藤健介 (学振特別研究員)
- P-28 国分平野の沖積層のテフラ編年と古環境変遷
森脇 広 (鹿児島大)・大平明夫 (宮崎大)・松島義章 (神奈川県立生命の星・地球博)・大木公彦 (鹿児島大)
- P-29 神津島天上山 838年テフラと新島向山 886年テフラの化学組成による識別 - 富士火山西暦 800-1000年頃の噴火活動史高精度化のために -
杉原由佳・福岡孝昭 (立正大・地球)
- P-30 河内平野周辺の縄文~弥生時代相当層から採取した材の¹⁴C較正年代
別所秀高 (財団法人東大阪市文化財協会)・木庭元晴 (関西大学)・景山陽子 (河内長野市教育委員会)・松田順一郎 (財団法人東大阪市文化財協会)
- P-31 2004年12月5日富士山北斜面で発生した雪代とその堆積物
内山 高・輿水達司 (山梨県環境科学研究所)・安間 荘 (建設基礎調査設計事務所)
- P-32 鹿島断層の活動履歴と地震発生予測 - 活動期の低い活断層による地震評価の一例として
中田 高 (広島工業大学)・千田 昇 (大分大学)・今泉俊文 (東北大学)・奥村晃史・熊原康博 (広島大学)・隈元 崇 (岡山大学)
- P-33 前・中期完新世におけるメコンデルタの古地理と堆積相: カンボジア, プノンペン近郊のボーリング結果
斎藤文紀・田村 亨 (産業技術総合研究所)・Sien Sotham・Ben Bunnarin・Kong Meng・Choup Sokuntheara (カンボジア GDMR)・塚脇真二 (金沢大学)

3日目: 2005年8月28日(日)

シンポジウム

汽水域における完新世の古環境変動 - 自然環境の変遷と人為改変による環境変化 -
< 第四紀学会 2005年大会実行委員会・島根大学汽水域研究センター共催 >

日 時: 2005年8月28日(日) 9:00-12:30

会 場: 島根大学 教養講義室棟 1号館 100番教室

世話人: 瀬戸浩二・山田和芳・高田裕行 (島根大・汽水)・坂井三郎 (JAMSTEC)

- 9:00 ~ 9:05 趣旨説明 瀬戸浩二 (島根大・汽水)
< 現世の汽水環境 - 古環境復元のための現世環境の研究 - >
- S1 9:05 ~ 9:20 汽水環境における水質特性 - 中海・宍道湖を例として -
坂井三郎 (JAMSTEC-IFREE)・中屋 雅 (島根大・地球)・狩野彰宏 (広島大・理)・瀬戸浩二 (島根大・汽水)・高安克己 (島根大)
- S2 9:20 ~ 9:35 中海における現生貝形虫殻中の同位体比・化学組成と個体群の季節変化
石田 桂 (信州大・理)・入月俊明 (島根大・総合理工)・石田義人・荒井章司 (金沢大・理)・小草宏樹 (島根大・総合理工)
- S3 9:35 ~ 9:50 汽水性二枚貝ヤマトシジミ *Corbicula japonica* にみられる殻体構造の変化
山口啓子 (島根大・生資)・野原佳織 (島根大・地球)・瀬戸浩二 (島根大)

- 大・汽水)・相崎守弘(島根大・生資)
 <十年スケールの環境変化 - 人為改変と海面変化の記録 - >
 S4 9:50 ~ 10:05 霞ヶ浦の湖岸における人為的環境変化と「自然再生」事業
 平井幸弘(専修大学)
 S5 10:05 ~ 10:20 自律的自然変動への人為的影響:汽水成堆積物に記録された1900年代
 の環境復元から
 野村律夫(島根大・教育)*招待講演
 S6 10:20 ~ 10:35 京都府北部に分布する海跡湖(阿蘇海)の湖底堆積物に見られる奇形珪
 藻種と湖沼環境
 田中里志・船守亜希子(京都教育大)・瀬戸浩二・高田裕行(島根大・汽
 水)・武蔵野 實(京都教育大)

休憩(10:35 ~ 10:45)

- <百年スケールの環境変化 - 古代遺跡と災害イベント - >
 S7 10:45 ~ 11:00 出雲地域における花粉組成変遷と「歴史」による解釈
 渡辺正巳(文化財調査コンサルタント)
 S8 11:00 ~ 11:15 斐伊川の東流イベントとそれが及ぼす堆積環境への影響
 瀬戸浩二(島根大・汽水)・中武 誠(島根大・地球)・佐藤高晴(広島
 大・総科)
 S9 11:15 ~ 11:30 底生有孔虫化石群にもとづく過去1200年間の阿蘇海の貧酸素水塊と天
 橋立の変遷
 高田裕行・瀬戸浩二(島根大・汽水)・坂井三郎(JAMSTEC-IFREE)・
 田中里志(京都教育大・地学)・高安克己(島根大)
 <千年スケールの環境変動 - 気候変動と海水準変動 - >
 S10 11:30 ~ 11:45 山陰中部地域における完新世の古地理と古海面
 中村唯史(島根県立三瓶自然館)
 S11 11:45 ~ 12:00 長尺コアの高精度解析にもとづく宍道湖水域の完新世古環境変動
 山田和芳(島根大学汽水域研究センター)・高安克己(島根大学)

総合討論(12:00 ~ 12:30)

普及講演会

人は自然環境にどのように向き合うのか - 過去から現在, 未来まで -

日 時: 2005年8月28日(日)14:00 ~ 17:00
 会 場: 島根大学 教養講義室棟1号館100番教室
 世話人: 山田和芳(島根大学汽水域研究センター)
 司会 酒井哲弥(島根大・総理工)

- 14:00-14:10 開会挨拶 大会実行委員長 木村純一(島根大・総合理工学部)
 14:10-15:00 福澤仁之(首都大学東京・都市環境学部)
 「湖沼年縞堆積物による地球環境変遷の将来予測:環境歴史学と2020年問題」
 15:00-15:50 高安克己(島根大学・学術研究担当副学長)
 「出雲古代文化の基盤としての出雲平野の形成」
 - 休 憩(10分) -
 16:00-16:50 國井秀伸(島根大学・汽水域研究センター長)
 「中海・宍道湖の自然再生は進むのか - ラムサール条約登録をまえに - 」
 16:50-17:00 閉会挨拶 日本第四紀学会会長(予定)

1講演:50分(発表40分,質疑10分)

島根大会における編集委員会ブース設置の案内

- 「第四紀研究」投稿原稿の受付から印刷までの流れと、より良い原稿の書き方 -

「第四紀研究」編集委員会では、会員の皆さまに少しでも編集委員会の仕事内容を御理解いただき、少しでも多くの「完成度の高い」論文を作成・投稿していただくために、種々の検討を行ってきております。この度、その活動の一環として、昨年の山形大会に引き続き、島根大会でもポスターセッション会場の一角に編集委員会のブースを設置いたします。ブースでは、編集委員会の仕事の説明として、投稿原稿を受け付けてから、査読・審査、受理に至るまでの過程や、受理後の原稿が印刷されるまでの過程をポスターにてお示しいたします。また、分かりやすい原稿の書き方、見やすい図表の作り方など、「完成度の高い」論文作成のためのノウハウの一部をお伝えしたいと思います。ブースでは、編集委員・書記がお相手いたします。この機会に執筆中の原稿や自作の図表をお持ちください。より分かりやすい図表作成や論文執筆のために、有益な助言が得られること請け合いです。皆さまのおいでをお待ちしております。

「第四紀研究」編集委員会

北海道大学大学院地球環境科学研究院教員募集のお知らせ

1. 公募人員：助教授 1名
2. 所属：地球環境科学研究院 地球圏科学部門 陸域環境ダイナミクス分野
3. 教育担当：大学院環境科学院 環境起学専攻 課題「共生システム創成」
4. 専門分野：フィールドワークに基づき、陸域における環境の変動を中心とし、それが人間活動や生態系に与える影響にも関係する研究、教育を遂行していただける方を希望します。
5. 提出書類：
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績目録（原著論文、著書・総説・解説、その他に分類して下さい）
 - (3) 主要論文の別刷またはコピー（5編）
 - (4) 現在までの研究の概要（1,500字程度）
 - (5) 今後の研究・教育に対する抱負（1,500字程度）
 - (6) 意見を求めることのできる方2名の氏名と連絡先
6. 公募締切：平成17年9月30日 必着
7. 任用時期：決定後できるだけ早い時期
8. 応募書類の送付先：〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目
北海道大学 大学院地球環境科学研究院 研究院長
(注) 郵送の場合は、書留で封筒表面に「教員応募」と朱書すること。
9. 問合せ先：〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目
北海道大学 大学院地球環境科学研究院
地球圏科学部門 陸域環境ダイナミクス分野 平川一臣
(Tel/Fax:011-706-2210/2223, E-mail: hkazu@ees.hokudai.ac.jp)
10. その他：本研究院では平成14年度より21世紀COE「生態地球圏システム劇変の予測と回避」の拠点形成研究を実施しております。本公募の教員は、環境科学院において地球圏科学専攻 陸域環境科学コースの教育を兼務していただくこととなります。研究院及び学院に関してはホームページ <http://www.ees.hokudai.ac.jp> をご参照ください。北海道大学では全教員で全学教育(教養教育)を担当することになっておりますので、ご協力をお願いいたします。

学術会議シンポジウムのお知らせ 博物館 = モノ集めの文化

主催：日本学術会議動物科学研究連絡委員会・植物科学研究連絡委員会

共催：国立科学博物館

日時：9月3日(土) 午後1時～5時30分

会場：学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34 地下鉄千代田線乃木坂駅下車すぐ）

13時 ～ 13時10分 開会の挨拶 遠藤秀紀（京都大学霊長類研究所）

13時10分～14時10分 モノ集めと博物館

「地域の標本の収集・地域個体群の認識・研究へ提供や成果、とそれらの意義」樽 創
（神奈川県立生命の星・地球博物館）

「博物館ネットワークの現状と可能性」森田利仁（千葉県立中央博物館）

14時10分～15時10分 モノ集めの未来

「国家戦略としての自然史標本の収集と活用」松浦啓一（国立科学博物館）

「研究成果物と知的財産権」富川宗博（国立遺伝学研究所）

15時30分～16時30分 モノ集めと研究

「何故博物館の標本にするのか？利用しやすい標本とは？」西田治文（中央大学理工学部）

「新たな標本のカテゴリー 個人蔵映像資料の展開」清野聡子（東京大学総合文化研究科）

16時30分～17時 社会との接点としての展示空間

「標本を如何に語るか（モノ・研究の翻訳としての展示）」洪 恒夫（東京大学総合
研究博物館）

17時 ～ 17時30分 総合討論

参加申し込みは不要です。途中からでも自由にご参加ください。

問合せ先：〒484-8506 愛知県犬山市官林 京都大学霊長類研究所 遠藤秀紀

電話 0568-63-0520 電子メール endo@pri.kyoto-u.ac.jp

学術会議では「自然史系博物館の高度化小委員会」が活動し、この問題に関する対外報告書を発表するべく作業を進めてまいりましたので、その議論の一環としても、ご参加下されば幸いに思います。

平成17年度（第27回）沖縄研究奨励賞推薦応募の案内

下記のとおり、本年度の沖縄研究奨励賞への推薦応募の案内が来ております。適格と認められる候補者をご推薦ください。

1. 推薦応募開始 平成17年 7月15日（当日消印まで有効）
2. 推薦応募締切 平成17年 9月30日（当日消印まで有効）
3. 記者発表 平成17年12月 9日
4. 贈呈式・受賞記念講演及び祝賀会 平成18年1月19日
[パシフィックホテル沖縄（那覇市）で開催]

[応募書類の送付先及び問い合わせ]

〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3-6-15 グローリアビル7F

（財）沖縄協会「沖縄研究奨励賞」担当：山岸貴生

TEL：03-3580-0641 FAX：03-3597-5754

HP <http://homepage3.nifty.com/okinawakyoukai/>

E-mail fvgm0090@mb.infoweb.ne.jp

那須孝悌追悼シンポジウム開催のご案内

昨年11月に逝去した那須孝悌大阪市立自然史博物館館長は、その生涯を通して、ご専門の第四紀古植物学分野において多くの研究成果を上げるとともに後進の指導とサークル育成に当たり、また日本の博物館界においても指導的な役割を果たしてこられました。

那須さんのこのような幅広い業績とその目指していたものをあらためて確認し、未来に継承し発展させるために、このたび地質学、第四紀学、考古学、古植物学の各分野と博物館界の関係者をお招きして、多岐にわたる那須さんの足跡をたどるシンポジウムを開催する運びとなりました。多数の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時：2005年9月3日(土) 午前10時30分～午後4時
場所：大阪市立自然史博物館 講堂(シンポジウム参加費無料;ただし博物館入館料が必要)
主催：那須孝悌さんを追悼する会・大阪市立自然史博物館・特定非営利活動法人 西日本自然史系博物館ネットワーク
後援：大阪市文化財協会・日本第四紀学会・野尻湖発掘調査団・特定非営利活動法人 大阪自然史センター

テーマ：「フィールドから博物館へ 那須孝悌追悼シンポジウム」

プログラム：

10:30 開会のご挨拶
10:40 「古花粉学者としての那須さんの仕事」 楡井 尊(埼玉県教育局)
11:20 「那須さんと野尻湖発掘」 近藤洋一(野尻湖ナウマンゾウ博物館)
12:00 昼食
13:00 「展示作りと学芸員育成 - 新潟県立歴史博物館の場合 - 」
西田泰民(新潟県立歴史博物館)
13:40 「現場が元気になることをしようや! - 那須館長と日本博物館協会の取り組み - 」
佐々木秀彦(江戸東京たてもの園)
14:20 休憩
14:30 総合討論
司会 高井健司・本郷美佐緒
コメント「日韓共同研究の実践 - 発掘現場から」 大庭重信(大阪市文化財協会)
コメント「那須さんと博物館ネットワーク」 中瀬 勳(西日本自然史博物館ネットワーク副理事長)
16:00 終了

なお、シンポジウム終了後、長居球技場レストランにて「那須さんを偲ぶ会」を開催の予定です(午後5時半～7時半頃)。偲ぶ会(会費3千円程度、当日集金)にご参加の方は事前に、シンポジウム事務局までご一報ください。

那須孝悌さんを追悼する会 シンポジウム事務局

樽野博幸(事務局長) 熊井久雄、山西良平、佐久間大輔、高井健司、趙 哲済、南 秀雄

連絡先：〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

大阪市立自然史博物館 地史研究室 樽野博幸

電話：06-6697-6221(代表)

(E-mail nasuproject@mus-nh.city.osaka.jp)

第9回日本第四紀学会講習会 「第四紀脊椎動物化石の基礎知識と研究法」の報告



2005年5月29日(日)に第9回の講習会を大阪市立自然史博物館を会場として開催した。前回は2002年に行われた「湖沼・内湾・レス堆積物コアの解析法」という講習会で、それ以来ほぼ3年ぶりの開催となった。今回はマンモスやナウマンゾウ、オオツノジカなど一般にも関心の高い第四紀脊椎動物化石を取り上げて、その基礎知識と研究法を学ぶという講習会を企画した。講師は大阪市立自然史博物館の樽野博幸氏と企画担当幹事の河村の2名で、事前に参加申し込みをしたのは17名、実際に会場で受講したのは15名であった。

講習会は午前10時に始め、最初に河村が開会の挨拶をした後、午前の部の講習に移った。その内容は以下の通りである(括弧内は講師、午後の部でも同じ)。

1. 脊椎動物の骨格の基本構造の解説(河村)。配布したプリントと黒板に書いた図、さらに骨格標本の実物を用いて、脊椎動物の骨格の基本構造を説明するとともに、魚上綱(魚のグループ)と四足動物上綱(両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類)の共通点や違いを解説した。

2. 脊椎動物の歯の基礎知識を解説(河村)。脊椎動物には同形歯性の歯を持つものと異形歯性の歯を持つものがあり、後者を代表する哺乳類は複雑で多様な歯を持っており、そのような歯は哺乳類化石を研究する上できわめて重要である。歯、特に哺乳類の歯を調べる上で基礎となる事項をプリントや黒板の図、骨格標本を用いて解説した。

3. 脊椎動物化石の研究法。小型のもの(河村)と大型のもの(樽野)に分けて解説した。小型のものでは、化石を含む堆積物を篩を用いて水洗し、化石を抽出する過程をプリントと黒板を使って解説し、さらに堆積物の処理過程は実際のサンプルを示して理解を深めてもらっ

た。大型のものについては、パワーポイントを用いて未固結堆積物から大型化石を発掘する方法と脆弱な化石を強化する方法を解説した。

午前の講習会は12時20分に終了し、昼休みを1時間とって、13時20分から次のような内容で午後の講習を行った。

4. 第四紀層からよく発見される脊椎動物化石についての解説(樽野)。パワーポイントとレプリカを用いて、第四紀の脊椎動物化石の産状を(1)河成・湖成・海成の堆積物から産出する場合、(2)洞窟・裂罅堆積物から産出する場合、(3)海底から見つかる場合に分けて説明し、産出する化石の実例としてゾウ化石やシカ化石についての解説を行った。特に、日本の第四紀脊椎動物化石を代表するゾウ化石については、その見方を詳しく解説した。

5. 展示室での標本やレプリカの観察(樽野・河村)。会場を実習室から展示室に移して、上に述べた1~4について、展示室の多数の標本やレプリカを詳しい解説を聴きながら観察し、理解を深めた。今回は、旧宝塚ファミリーランドで収集され、近年本博物館に寄贈された多数の骨格標本も特別に展示されていたので、それも詳しく観察することができた。

6. 化石抽出の実習(樽野)。展示室から実習室に戻り、堆積物中から脊椎動物化石を取り出す実習を行った。用いた堆積物は大阪市の森ノ宮遺跡の縄文時代の文化層から採取され、水洗処理の終わった堆積物で、多量の貝類に混じって魚類、哺乳類など脊椎動物の骨や歯が含まれている。参加者は堆積物を少しずつ手元にとって、その中から脊椎動物化石を拾い出す作業に挑戦した。



(写真撮影：波木基真)

このような作業は16時40分で終えて、河村が簡単な挨拶をして今回の講習会を終了した。今回の講習会は非常に盛りだくさんの内容で、参加者には第四紀脊椎動物化石とその研究法に対する理解が深まったと思う。参加者は皆さんたいへん熱心で、講習会の間ずっと活発な質

疑応答が行われた。

最後にこの講習会の企画に協力され講師を引き受けて下さった樽野博幸会員と、会場を提供し種々の便宜を図って下さった大阪市立自然史博物館の皆様に感謝したい。

日本第四紀学会企画担当幹事 河村善也

独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム2005

『地球とくらしの環境学 あなたが知りたいこと、私たちがお伝えしたいこと』の報告

国立環境研究所の上記公開シンポジウムが環境月間である6月に、東京と京都の2会場で開催された。私は京都会場に参加した。発表者はクールビズスタイルで、冷房温度は高い目、会場での飲食は不可というちょっと厳しい会であったが、約150名の参加者で、会場は立ち見もでるくらい盛況であった。

私たちのくらしに密接に関係する環境問題についての最新情報や研究成果の講演4件(地球温暖化2件、循環型社会、化学物質の影響の各1件)と、研究者自らがパネルを用いて直接、対話しながら説明するポスターセッション25件の発表があった。

講演1、2は地球温暖化についてで、地球温暖化 - 何が起るか、どう防ぐか - 温暖化が招く気候の変化とその影響(江守正多)、地球温暖化 - 何が起るか、どう防ぐか - 温暖化を防ぐ社会のあり方 - 脱温暖化社会に向けた3つの取り組み - (藤野純一)、講演3は循環型社会に向けた「技術」と「ライフスタイル」 - 五つの問いかけ - (大迫政浩)、講演4は化学物質の安全性はどこまでわかっているか(白石寛明)であった。

ポスターセッションは多岐にわたり、日本で起きている環境問題、アジアでおきている環境問題、さらには世界規模でおきている環境問題が取り上げられ、環境問題の本質理解のための基礎研究、環境改善のための技術革新、豊かな自然や安全な生活を維持、創造するための試みなどが紹介された。

どのテーマも重要で興味があるが、やはり第四紀学を学ぶものにとって、地球の温暖化については自然現象としてどうなのかをはっきりさせること、過去のこれまでの事実と、自然環境へ与えた影響を具体的に指摘していくことしかないのかなあと、いつもながら、自分の不甲斐無さを感じるばかりであった。

研究者は日々新たなテーマに取り組み、最新の情報を市民に伝えるのが使命、市民はその情報を的確に知り、理解した上で、どうするのかを考えるべきだと最後の締めくくりで、なるほど、「あなたが知りたいこと、私たちがお伝えしたいこと」というテーマが理解できた。せめて「自分一人くらいいいわ」と思っている行動はつつしみ、地球温暖化防止対策「チーム・マイナス6%」に参加したいものです。

松下まり子(人と森の研究室)

2004年度第7回幹事会議事録

日時：2005年6月25日(土)14:00～17:00
 会場：早稲田大学教育学部16-512演習室にて
 出席者：熊井久雄(会長)、真野勝友(副会長)、山崎晴雄(幹事長)、池原 研、奥村晃史、兵頭政幸、中川庸幸(事務局)、久保純子(記録)
 欠席者：斎藤文紀、小野 昭、松浦秀治、河村善也

. 報告事項

1. 庶務

第四紀通信への会員消息記事掲載内容を、個人情報保護のため一部変更した。

寄贈図書・資料(4件)報告

評議員・役員選挙結果報告(選挙管理委員会)

学会事務センター第2・3回債権者集会報告は、最終的な結果が出てから「通信」等に掲載予定。また、学会事務センター破産に伴う旧理事からの和解金(96,004円)の振り込みが決まった。

2. 会計(庶務代読)

2005年度第1回の会費請求を6月下旬に行った。今回の請求書の発送にあたっては、昨年の日本学会事務センター破産による影響で2004年度会費の納入と受領時期に遅れがでたことから、これが2005年度会費の前納率の減少につながらないように、「会費請求にかかるお願い」を同封した。

3. 編集

刊行・編集状況の報告

4号(特集号)の編集が遅れているが、大会案内があるため「通信」のみ先に会員へ送付の予定。

4. 行事(庶務代読)

島根大会発表件数は計80件となった。

5. 広報

「第四紀通信」3号刊行済み、次号原稿締切の件。メーリングリストの管理更新について8月中旬までに回答が必要。

6. 渉外

地質科学関連学協会連合主催シンポ延期の件、地球惑星科学連合の設立のための評議員会と記念パーティー報告

日本地球惑星科学連合として、シンガポールで開催のAOGSに出展、会場にて連合加盟各学会の出版物を展示予定。

7. 企画(庶務代読)

2005年5月29日(日)第9回講習会「第四紀脊椎動物化石の基礎知識と研究法」(大阪市立自然史博物館にて開催)報告

8. その他

8-1 研連(町田委員)

特になし、新体制が公表されるのを待っている状況。

8-2 50周年記念事業実行委員会(熊井会長・山崎幹事長)

国際シンポジウムの日程(2007年8月)調整中
 CDの作成、学会創始期の話(シニア会員)の記録について

8-3 学会倫理憲章策定委員会(小野委員)

委員会原案を第四紀通信へ掲載し、会員の意見を求めた。

8-4 論文賞選考委員会(庶務)

委員互選により、岩田修二委員が委員長に選出され、選考作業を開始した。

. 審議事項

1. 庶務

9月3日に予定されている那須会員の追悼シンポジウム後援を承認した。

掲載許可2件

平成18年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の件は今回見送った。

J-STAGE電子アーカイブ対象候補雑誌に関するアンケートは可能なら回答する。

学術著作権協会の「文献提供者に限定的な電子化を許諾する権利の委任について」承認した。

2. 会計

なし

3. 編集

投稿規定の改訂について編集委員会原案を審議した。次回編集委員会、幹事会を経て8月の評議員会で承認を受ける必要がある。

4. 行事

なし

5. 広報

メーリングリストの管理契約については次回審議。

6. 渉外

連合の「広報・アウトリーチ委員会」に学会情報を提供する件を承認した。

7. 企画

なし

8. その他

次回評議員会・総会資料準備について：各幹事が7月末までに原稿を準備し、庶務幹事がまとめて次回幹事会で検討する。

次回幹事会：8月11日(木)首都大にて

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。
第四紀通信は奇数月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。